





段状遺構 (A9 トレンチ)  
奥行き約1 mの平坦部をもった幅狭の段状遺構で、平坦部下では溝状遺構も確認されています。



段状遺構 (A1 トレンチ)  
奥行き約1 mの平坦部をもった幅狭の段状遺構で、地山の落ち際には溝状遺構も確認されています。



出土した細首壺 (A1 トレンチ)  
西南四国型土器と思われるもので、楯描文や円形浮文などの装飾がみられます。  
(市立博物館で展示中)



平坦部内で検出された土坑群 (A6 トレンチ)  
段状遺構内の平坦部で、複数の土坑が検出されています。



出土した西南四国型土器 (A7 トレンチ)  
西南四国型土器の甕で、本遺跡で出土した甕のなかでは最大級のものです。



段状遺構と溝状遺構 (A7 トレンチ)  
溝状遺構が埋まった後に、段状遺構が掘削され平坦部が造られた状況が確認されています。



段状遺構 (A17 トレンチ)  
奥行き約1 mの平坦部をもった幅狭の段状遺構で、地山の落ち際には8基のピットが確認されています。



溝状遺構 (A5 トレンチ)  
地山の落ち際に、幅約50cm、深さ約40cm、断面V字形の溝が検出されています。



斜面部に堆積した遺物 (A15 トレンチ)  
急斜面部分で、上部から転がり落ちたと思われる土器、石斧、砥石などの遺物が数多く発見されたことから、A区の上にも遺跡が展開している可能性が高いと考えられます。



## II 調査の成果

平成 26 年度より実施している今回の調査は、昭和 40 年の発掘調査以来、実に 49 年ぶりの調査ということになります。

調査箇所は、大きく 3 つのエリアに分け、標高約 60m 付近の旧三島神社周辺を「A 区」、標高 100m 付近を「B 区」、標高約 120m 付近を「C 区」としました。

調査方法は、トレンチと呼ばれる細い溝を複数掘削して遺跡の有無・内容を確認し、遺跡が確認されたトレンチでは拡張して詳細に調査を進めていく方法で実施しており、これまでに各エリアで計 42 箇所のトレンチを調査しています。

### 1. 発見された遺構

今年度調査を行っている A 区の調査成果としては、「**段状遺構**」や、「**溝状遺構**」「**土坑**」「**杭列**」などの遺構が発見されています。なかでも、A1・6・7・9・17 トレンチで発見されている段状遺構は、地山を人工的に削って平坦面を作り出したもので、奥行き約 1m の幅狭のものから約 2.5m のものなどが確認されています。平坦部内に炉跡や柱穴になるようなピットが見られないことから、居住空間にはならないと思われそうですが、その性格については明らかにできていません。ただ、この段状遺構内やその周囲には溝状遺構、土坑、杭列、ピットなどが多くみられることから、段状遺構が何らかの活動の場であった可能性は高いと考えられ、斜面部に営まれた村島宮の首集落の土地利用を考える上で重要な遺構といえます。

### 2. 出土した遺物

出土遺物で特徴的なのは石器類で、本遺跡で製作されたと思われる**緑色玄武岩**製の石斧とその未成品、**赤色珪質岩**製の石鏃などが多く出土しています。さらに、これらを加工する際に使用した叩石、砥石などの製作道具や、加工する際に出る剥片(石屑)なども出土しています。このほか、稲の穂積み具と考えられる石庖丁や、木材をハツったり削ったりする柱状片刃石斧やノミ状片刃石斧などの木工具なども出土しています。

土器類は、壺、甕、高杯などの弥生土器が出土しており、「**西南四国型土器**」と呼ばれる南予地域から高知平野以西の西南四国地域に分布する土器を中心としています。一方で、他地域の影響を受けた外来系の土器の一群を見出すこともでき、なかでも「**凹線文土器**」と呼ばれる瀬戸内海側で広く分布する土器の高坏などは、**弥生時代中期後葉頃**(約 2000 年前)と考えられているものであり、本遺跡の年代を考える上で貴重な資料といえます。

## III まとめ

今回の調査において、これまでの寄贈資料と同質・同形の石斧や石斧未成品が数多く出土したことにより、寄贈資料が本遺跡出土のものである可能性が極めて高くなったといえます。これら寄贈資料に今回の調査分も加えると、石斧やその未成品の総数は 300 点近い数になり、県内のみならず四国でも随一の出土数を誇ります。

このように、多量の石斧や石斧未成品、その剥片や製作道具など、石斧の製作が行われたとする“物的証拠”は揃いつつあります。しかし、石斧を製作した明確な痕跡、例えば工房跡や失敗品の捨て場といった遺構などは発見されておらず、さらに集落の基本となる住居跡についても未発見であり、こうした遺構の発見が今後の調査の課題といえます。また、石斧の材料となる石材採集場所などについても特定できておらず、今後解明すべき問題といえます。